



特別
ル4
3770
4



冊 4
號 3770

昭和二十六年
二月十三日
購球

京都府京都市西區西本願寺
靈寶寺藏書目録

靈佛

一頁

拍佛

四頁

靈寶

并古史

六頁

古筆

并畫幅

十二頁

額筆

十八頁

古鐘

廿二頁

古閣

廿三頁

奇附

廿六頁

氣像	廿八丁目
山峯	廿二丁目
剛河	廿八丁目
靈泉	四十二丁目
靈池	四十七丁目
靈水	四十八丁目
奇石	四十九丁目
名樹	五十二丁目
古橋	五十五丁目

京師二重城函巻目録

京師二重城函巻目録

靈佛

古樹三尊

切人てふのまゝに
 嵯峨の源と云ふ
 釈迦如来は後醍醐
 天皇の御代に
 南都東大寺に
 住持せられたり
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり
 因幡堂本寺の
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり
 此後園林を
 修葺し
 として
 釈迦の
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり
 不介り天竺三尊
 少の橋以平
 美差に
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり
 信濃の園
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり
 陀乃多
 御願は師入るる
 所を奉りて
 安んじし事あり

約三冥佛と号す

中約三文珠

大和の山安宿の文珠殿

の文珠の殿の園に三文珠を安置す
内中約三文珠を乞はじ文珠殿の
中山安宿幢を乞はじ中世安宿幢
絶てりらるるたに光の四方
あり中興安宿を乞はじ三文珠の
塔と建立しては文珠と号す
らるる今方丈に五十五石を
安置す此の所は文珠の園と
りて勅修す所なる宮庭の記に
三ふんふんの山に安置す
金吾寺三号
中興安宿を乞はじ
三ふんふんの山に安置す
中興安宿を乞はじ

一木三石

東極の石を世に
堂と号せり中興寺

乃本寺の親世音又西の
の本寺の親世音入宅村地
本寺の親世音と号す此の社
の本寺の親世音と号す此の社
世に佛と号す

觀木堂

頂上寺の南に
太子文殊殿

本寺の親世音と号す此の社
太子文殊殿と号す此の社
本寺の親世音と号す此の社
太子文殊殿と号す此の社
太子文殊殿と号す此の社
太子文殊殿と号す此の社
太子文殊殿と号す此の社

廻觀の谷

禅林寺永為の堂
世に佛と号す

若日永保二乙二月十五日永
 觀律唯位感此時每日佛茶
 して念佛一万遍或ハ二万遍
 とも入るせり又ハ外道念
 佛の事おろす事ある付
 永親をむく法諸に神位に
 のりこもるわたり行るを
 見たる今も後西類今も法
 ありて世もこつと佛と神と
 け外系松真女堂の中もハ
 慈愛大味れ神位ありて
 法感山あり山門戒の上
 人此身より入たまひ法一室て
 産生利益のちりひわつ又世
 敬も乃中もは侍りて三層の
 神位より五層六層を佛位
 乃内は位にありてつとま佛
 こそ事神位世人のちりて念

ありてつとぬわたり大観之長
 ありまりのなり

増新淨陀 東山清水寺中堂
の面あり俗云浄陀

る人位味とつらば本小行る
時ハ諸れれに成花せはとまは

玉章地系 清水寺以南あり谷の
小の俗云つる事あり

如約玉つとては地系よりなり
小ゆり小所ニ神位の極なりあり

子安地系 此室北里北南地系
ちニわり深なれ安

産此奇瑞あり寺の系ニ極長
帝此陵より伝へ此陵の迎あり

差見地系 系松より寺所
三極寺より内

あつと深なれのきりてこ多中の
系松ありあり

木乃地彦

小也此西條川の隈
修云將軍をばと麻

死院と創しやうのふ所しよに本堂を

かまふ中ちゆうに安やすむと云いふ所しよに

本堂の地ちを号ごうす云いふ所しよに

基もとは依よりてと修しゆ初はつ

昆陽こんやうと云いふ所しよに

約飛葉やくひえ

泉涌いづみと外門がいもんのく

洛らくががふ通とほれれと云いふ所しよに

指勢さしせい

山徳さんとく天王てんわうののかかふ

修しゆ云いふ所しよに

約回觀音やくかいくわん

中ちゆうのの観くわん音いんののたため

修しゆ云いふ所しよに

甲冑觀音かうくわん

京きやうのの神かみののたため

夕觀ゆふくわん

京きやうのの神かみののたため

持佛

觀音寺くわんおんじ

山徳さんとくのの神かみののたため

修しゆ云いふ所しよに

千光寺せんくわうじ

中ちゆうのの角かくののたため

修しゆ云いふ所しよに

入いれ像ざうと云いふ所しよに

法徳寺ほつとくじ

寺じのの南なんののたため

はるの村の妃帯梅の石のよむ
もつりけしるふまふ宗なりを後
休寧上人の法縁を智上人の法縁
行りしるふまふと改津を宗とわ
法縁となすことかつしるふまふ
あわなまふ宗呼ハも相帝の御
持佛なりしるふまふ

敬徳寺

四茶系持合道堂の四
なまふ標取の地を井ハ
深谷の石の持佛なりしるふまふ
住心院なりしるふまふ

東光寺

山形に中ねの西より
なまふ山院を長秀言
安徳佛なりしるふまふ松の丸を系は
しるふまふは興上人の御佛
始けしるふまふ附しるふまふのあり
吉くけしるふまふとあり山宗あり
しるふまふかたしるふまふの中よりた

瑞泉寺

清けなまふ陳佛しるふまふ
潤子村ありなまふ法縁ハ
梅尾の石上人の御佛
足利基氏云の持佛なりしるふまふ
別基氏云創建寺なりしるふまふ中世廢
懐く寛永の中休宗は立良
聖再真なりしるふまふ

本覚寺

五条下寺町ありなまふ
法縁ハ安徳の御佛なりしるふまふ
女法佛也え遍照心院のありしるふまふ
法更然れはなまふ宗の御佛也
ありしるふまふに安徳なりしるふまふ

大真寺

赤松海花園のあり
なまふ宗師下寺ありしるふまふ
も氏云の御佛なりしるふまふ
なまふ宗ありしるふまふ
小芝の所ありしるふまふの某時云
今ハ東福寺の御下にて禪宗の

伊豆 巻四

光の寺

京橋今出川の土よりわが
そのはるばるを禁のま類
程入を蓮生れお佛をりるし
生を創建とるもなむ

光聖寺

永観堂の土より口は堂
此寺も釈尊の像ハ
東福門院 浄持佛をわあき建

本弘

刻此時をせもあ人わ
今に同基にせがも汗池とる
坂方の三菩薩のくあ信の作をわ
傳之いあ九條久しそくそ
このらあふのあわい
九條久しあわして持佛い
怨に九條久記あわ俗あ人
あの人佛しと

地蔵院

寺の村東の山ありわが
地蔵にお佛を橋の清冠
このお佛をかたけに歌音
あわいあふのハ古を清冠は
あわいあふのハ古を清冠は

遍照院

東寺のわありあひる
一早寺方丈
傍并ニ正堂人か
あわいあふのハ古を清冠は

あわいあふのハ古を清冠は
親鸞上人のお佛を背後に親
鸞の書あり口目せ堂と
ご山科にそそあ丸の
とりきあわいあふのハ古を清冠は

霊寶

肉付牙舍利

泉涌寺在
利敷

大羅漢圖

惠素 筆
禪月

右泉涌寺にあり中二番
入唐僧の所なり
祖俊初入市海約の自将木の
紳書佛具并古余有手

一切經

建仁寺方本あり約群
國の物なり

唐制天像

同寺神舎番あり
御世あり

健陀國如來

并念珠

東寺にあり弘法大師惠果高
しりし付属する不之け外大師御本
此書並三佛あり

授戒灌頂之式

一巻 弘法大師筆

連筆一切經

紙紙金泥以兼法
典あり

十如是

一幅 弘法大師筆

無著菩薩字

木皮の上書き
之筆法殊勝

十二天屏風

宅間法眼筆

西東曼陀羅

并鈴獨鈷念珠
大伴將末あり

千散地蔵小像

高尾達棧院
三任老呌あり

あひは尾尾張國長母寺に何老呌
の行施あり

法苑珠林

宅間法眼筆

浄土宗門七箇條教誡 浄土宗

一して改て諸才子の名あり申
二俾空に名たり是中最も尚
山親實かゝり

浄土宗門七箇條教誡 浄土宗

右の條に云く院あり其寺物多
浄土宗門七箇條教誡 浄土宗

解脱之入海式 解脱

右の條に云く院あり其寺物多
解脱之入海式 解脱

同縁起 同縁起

右の條に云く院あり其寺物多
同縁起 同縁起

大惠祥雲 大惠祥雲

右の條に云く院あり其寺物多
大惠祥雲 大惠祥雲

春自任吉神像 春自任吉神像

右の條に云く院あり其寺物多
春自任吉神像 春自任吉神像

天日天降金像 天日天降金像

右の條に云く院あり其寺物多
天日天降金像 天日天降金像

達磨像 達磨像

右の條に云く院あり其寺物多
達磨像 達磨像

高田田中氏の二代ゆゑありて片長一
藝者にして後八幡にゆゑは特許
息乃佳人右馬の尉と云ふの公像と
撰本ありて田中氏に授けりて
後けきりて是を行く

源三位頼政甲冑

定治平重院方丈ありて外三
國傳系れ佛像生々并天下此
名器亦教不宝ありて
又後の少あり余れ西神の社在
源三位頼政怪を射ふは傳の
社入り形小法術の後教不の
とけ神のまへを細くするあり今
頼政の甲冑并ち夫を依りて
社と世に教神のこまうま
知川頼有甲冑并旗竿

建仁寺の四水保蓋あり

壬生忠宍所持硯

芝面

融通念佛縁起

三卷

右壬生地系院ありて縁起の書
殊々あり絶ありて

法皇上人持和鐘

并装束

東山智恩院ありて外佛全
利九品又曼陀羅佛道乃書五

教品あり

後柏原院勅書

在日院
于文曰

智恩院ハ淨土宗也
法皇御忘者也

後奈良院繪旨

日院あり
于文曰

任_二後柏原院之先例_一為_二譯去
宗之趣_一中_二寺_一修_二法_一松上人_二佛_一
者也_{ト云}

善_二度_一院_二義教_一自_二筆_一錄_二起_一
三

右_二周_一帳_二堂_一あり

八_二幡_一太郎_二義家_一由_二曹_一良

二_二系_一京_二松_一要_二法_一首_二の方_一丈_二あり_一
此_二上_一の_二義_一家_二の_一金_二字_一あり_二矣_一
代_二此_一物_二あり_一

法_二然_一自_二筆_一選_二撰_一集_二草_一中_二一_一卷

慈_二惠_一大_二師_一遺_二藏_一 一_二卷_一

聖_二實_一墨_二痕_一

右_二京_一極_二盧_一山_二寺_一あり_二外_一尚_二寺_一

十_二世_一照_二林_一約_二十八_一歳_二一_一入_二會_一海
船_二の_一古_二坐_一任_二山_一惟_二雲_一帷_二實_一照_二林_一
侍_二者_一あり_二余_一の_二一_一軸_二あり_一此_二右_一
仲_二小_一有_二若_一干_二一_一は_二寺_一始_二八_一双_二の_一也_一

佛_二鬼_一車_二圖_一

土_二佐_一右_二監_一筆
寺_二所_一十_二念_一寺

安_二徳_一天_二白_一海_二衣_一幡 東_二宅_一不_二寺_一

五_二准_一如_二衣_一 惠_二日_一山_二東_一福_二寺_一

け_二外_一佛_二徑_一徑_二照_一揚_二必_一密_二菴_一の_二衆
沙_二衆_一聖_二一_一國_二原_一は_二此_一の_二寺_一あり_二矣_一
横_二射_一牧_二溪_一の_二三_一幅_二射_一 非_二佛_一司_二の_一書_二也_一

五_二百_一羅_二漢_一寫 的_二非_一筆

觀_二音_一之_二相_一 三_二十_一三_二幅_一
日_二筆_一

右東福寺よりありは外南山人
の約得本此佛像經書なる五
卷抄ありあり記す不違

何育王本抄舍利 浄光寺

釈尊鉄鉢 京極東寺所
玉徳寺

佛舍利 三粒
光明右宮護念

惠心枕箱并干鉢地銘 せんたい
春見作四寸厨子六

佛舍利 壹方粒
敬禮

弥勒三尊 比首釋摩化
赤梅檀

肉付牙舍利 後柏原院沖中
は舍利のり太平記八卷あり

右上下賣小川報恩寺あり

は外物ありあり くわんじょう
文相悪筆

緋紙金泥弥勒經 千本瑞雲院

都牟婁曼陀羅 山科牛尾山
教法寺

聖徳太子の御筆 ゆづり
秘伝のえんま

融通念仏経 志卷
おまへ上人此制作山法金剛院

伊勢三所美盛甲冑并幕 赤
幕

鉦鼓并拄杖 玉室上人
御筆

深草真宗院よりあり上人浄去
西山深草流美の角祖中
後深草此院依傍あり

正親町院御繪首 京極町のり

後柏原院法繪首 京極佛隨寺

九京大曼陀羅 京極極本堂上
佛光寺

春日大内神才御乃弟 京極高辻
永養寺

志心一掃佛 永養寺

善為寺自若歌 同寺

法苑上人流歌 同寺

十六羅漢湯 本位
同寺

鮮白斤尺八 大坂道場
同寺

いざ観 同寺

和布抄子 同寺

寶貝感甲 同寺

三多弥陀 同寺

十王 小野智美作
寺斷三冬上
金剛寺

蓮糸曼陀羅 永觀堂

弥陀三尊 長講堂

後白河院の御宸筆 長講堂

跡隨三多迦陵頻 勝光院

中納婦のそり髪存多のり 勝光院

石室流火名号

法皇上人南華
同寺

威陽文香燈

系松愛余下所
淨教寺

後乃名号

東國尾七糸
正行院

慈谷横心名号

法皇上人南華
緇念寺

吉水急力淨教

同寺

孝卷太子像

異念寺
國生寺

唯佛在佛乃能窮盡八字

石室福寺あり

一牧記禱

中立りのナキ
報土寺

後陽成院中宸筆

登王代書跡

西京
西蓮寺

觀音西聖像

同寺

九不淨之金也天皇之陀羅

も氏於軍殿刻地於

右新善光寺あり

△此外福寺の聖蹟あり未だ及地

右佛の書示教宗あり之と一
概く此に

古筆 并各圖

鏡乳

慈寺玉鳳院より花筒
法皇よりしる鏡として内容

と字ありし軸あり境の爪を号

ととよしし神刺ありし神刺

又梅津を福寺より神 宸叙あり

法皇宸叙ありし神刺

の六月何院公見しを鏡より

ありて宸叙と柄もみゆる并

公買りて宸叙より宸叙と宜し

むるの事神工園大層なりし

神寶

徳園舎多礼の儀式より

後多融院の神宸叙ありて冬

日は板とありし袋より色黄

此神寶ありし

花散

梅畑村ありし花散

女子尼とありし花散

教師より部よりありし花散

尾高山の齋堂より納むる

とありし花散

ありし花散

ありし花散

宿名馬

妙心寺塔敷靈雲院より

管禪刺の事ありし花散

ありし花散

ありし花散

標石

下れたらありし花散

を南福院成賢僧より花散

三寶院より花散

西山三活寺内外の石表に

女人并酒内五卒より花散

石表

入判内^ハの文字^ハわの毛^ハ海^ハの毛^ハ文^ハ
の毛^ハ波^ハからとよ人の毛^ハの毛^ハの
用^ハの毛^ハ

六字

清^ハの坂^ハ真^ハ福^ハの六角^ハ輪^ハ
英^ハの南^ハの海^ハの海^ハの海^ハの文^ハ
字^ハ六^ハ方^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
坂^ハ本^ハ西^ハ教^ハ寺^ハ用^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
海^ハのあり^ハ

短冊

女^ハ長^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
乃^ハ方^ハ丈^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
あり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
假^ハ英^ハ家^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
寺^ハ中^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
佛^ハ殿^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
昭^ハ堂^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
梵^ハ字^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ

成^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
登^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
五^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
此^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
夕^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
此^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ

番神堂

海^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
一^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
信^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
く^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ

梁

梁^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
大^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ
大^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハのあり^ハ

仲家定頼作の文字あり是
定頼より定頼也と脇に文字定
頼とありて衆とあり文字あり
これ定頼の字なり

縁起

此縁起は遠く方より縁起
如來此後云々あり

自益

梅ヶ村一の末村を爲し
此縁起と人此縁起にて

地名

東山一心流此一人相頼の人
一々大和三輪山より後よはに
居行せりは此一人とぬ
と縁起此縁起此縁起

外

此縁起あり

地番

中納言平教成此の領なり
二麻死相承此縁起の神判并境

此地番通懸心此あり

宸景

高倉の院神宸景
ありありと此縁起あり

達磨

物より今此縁起の坊あり
織田元正に有承此縁起
伝此縁起あり

及

道八と此縁起あり
此縁起此縁起あり

及

此縁起此縁起あり
此縁起此縁起あり

及

此縁起此縁起あり
此縁起此縁起あり

書像

醫家の中井泉此祖香園
新の儀天徳寺に像あり

わりの古法眼射中えはり馬より
ありて賛ハ惟る妙安は作る也

昼幅

る我武部内入道徳長
しききとえ其人のい

本朝人志願ふ侍らるる又徳長
クありて徳法と云徳者一徳あり

しききといふしきき珠房よ昼幅多
てしきき商人今徳長此を合志願

遺誠

浄如尼に傳云後成婦の
あり自まつあまの遺誠を

地山林邊界等の三ヶ条此制
終一弘安三の八月五日浄如の

判あり女系といふもこころ許ん
しききと云現しき福と云い

院よありしは此に別れぬ縁

浄如尼此塔ありし遺誠の又
しきき時南の院の地古くは性

の塔内より案いしに後成婦
秋のしきき後九十の如あり

ありしきき後成で死は老母此
存命なりし事ありしきき

浄如の記の中し後成と云宗
此文あり後成はハズ久えのよ

幸と弘安三のとおさる事七十
ありありし時浄如の後成は

しききあり浄如のいしきき

自益 明非せよ非信前二号
育目かまろく各貴寺に

思赤々くその立る羅漢の馬と
写しありし時老母浄如あり

後成ありし時浄如にありし人
事とありしありありの非や母れ心

しきき又後の事しきき

しして授けりんまかひかきま事に
おりのひ我の像と書しして母の方
よおくり母の心と書しして母の方
母は益縁と見對面此心地
て心とわぬこま、今は益縁を極
き、内南の像ありけ縁縁を
何れれら下ありてあられと
退耕菟此性海よりん發詞
とまたたよと流く衣破きて戒
ゆるもごと身負いして道會
らむとれ均ありと

繪馬

清水寺中堂より家
五節時宗ありとらう

後秀あり秋益の像ありれ長
谷川氏久ありとれ物世經

幡龍

東嶽寺は當北天井幡の
思ふを後不切修理か
世よりお心と書しして世會ありと

額筆

唐玄宗白皇帝宸翰 泉涌寺

補陀洛山圓通寶閣

後小松院宸翰

究竟頂

北山 藤死寺

聖德太子御宸筆

廣隆寺

太秦 廣隆寺

小野道風筆

二尊院

淡路 二尊院

花園院御宸翰

圓明

梅津 長福寺

在關山堂

弘法大師筆
嚴法寺

山科牛尾山
嚴法寺

二條院御宸筆
秘密莊嚴院

本陣西小田原
澤福禪寺

後奈良院御宸筆
正法寺

八幡
正法寺

青蓮院御宸筆
佛徳山興聖寺

宇治
貞聖寺

後陽成院御宸筆
燈明寺

和歌山佐竹町
灯明寺

同院御宸筆
豐國寺

鳥取東近江寺
法國寺

後醍醐院御宸筆
勝國寺

赤松後深下町
勝國寺

後陽成院御宸筆
大聖院

日田余下町
大聖院

後水尾院御宸筆
福正院

寺所
並三敷内

同院御宸筆
西原寺

西賀茂
西原寺

後奈良院御宸筆
知恩寺

田中村
百万遍

後福原院御宸筆
知自恩教院

東山
知自恩院

無山法皇御宸翰

偃月橋

東福寺

大の國師

通天橋

日寺内

後深草院中宸翰

深草

真宗院

真宗院

麻苑相國義海公筆

洛

席元院

金剛寺

右同筆

等持寺

洛西

等持院

世も寺成行季筆

小本

引接寺

焔魔堂

小野道風筆

大原山花古

勝持寺

大原寺

鹿苑相國義満公筆

小本

經王堂

願成礼寺

方印小大樹蔭涼の四字あり

以額今大報恩寺にあり

元菴普寧筆

吉祥山正傳護國寺 正傳寺

極玉御門院中宸翰

吉田社

太元宮

齊場所

佛同筆

元本八神殿

同所

清水谷家筆

日本最上南太神宮 同所

日本最上神祇齋場

妙善院一住富子筆

外宮宗内宮源 口所

富子八百七勝元新勝元公の足下
兵政史の身して猶大政史長史政史
の室常陸院内村義尚公の母也

友佐理錦筆

八幡宮 一之鳥居

鹿苑院義尚公筆

鹿王院

覺雄山

以願太子刹才五位實幢寺法主也

照高院道覺法親王御筆

新熊野權現 新熊野村

持明院基時筆

惠心院 惠心院

國分寺 竹田

此額真乃舊物あり統一元曆
元(白)仲秋吉辰此字アリモノト
方印あり文字不明なり

蓮華寺 高野村

右同筆

雲母寺 修學院 不動堂

古浄

他浄

寺所二條下所物風の
 方丈に古洞鐘あり是北
 易目なる北条道成よ北浄よりて
 加高に絶列目なる那美田の左
 文天字乃勅取不道成る亦
 淨勸を以丘別當法眼定秀
 檀那源方秀丸并に吉田休の
 親秀合山請檀越男去天工山
 於小工天長守也延曆十にひ
 美と月十日此文字ありは淨より
 此時さばるゝ事をもとく此浄法
 寺に古浄特也爰易してや
 了散立ともものおり一書香
 此よりかり度降ちのいにて
 如納を修り入道の徳ある東
 福を北條は西ちのかりかると

相國よれひひ蓮宗好まると
 かりかると

貞曆

延佐の南洞鐘寺北條
 後後北條
 ちし不也孝後入角の時
 俣よつけてさけいひる中
 三〇と浄て城のけけり
 と〇と浄のいづりこひわに
 しておち浄樓いけり
 ともひりまき度そにすめそ後を
 りま我がまはひりれまかり
 二まげまきあふひりりま
 とく二〇と浄て浄樓よ
 三言特おのほくそとあ
 俣のより実わるとさ
 りわわるとる言今
 ちるまよりりりりり
 これかると

同訓

二条川原日蓮の遺徳
此等世人れあふふ
まゝ音響身より傳へたる天正寺

三絶

六時堂此等と月謝子かりし
高雄山神護寺此等は
橋の慶相此詞歌の絶
若れ此等の教ゆり書あり世

秋摸

宇治平兵衛院の清く秋
像年不とり伝へて出る

のいひ 清くとりては清の形摸と
標集とせり音響も、同摸る
のいひとてててて一雙とてて

漢詩

山無死寺のいひの中
華れ抱あて又絶あて
つと無苑相圓りるつと伎と伝
り續く物也今うたふ

古歌

鳳凰造

宇治平兵衛院の神堂は
白乃長云此息歌宇治
此用白羽乃公永兼ての免と
寺とてててあかりりる清溪漢
おの形摸とててい堂取鳳凰の
家と造るた名の居とあれは
こゝ後の廊と尾と表はる
毛と鳳凰造つてて号也

進上間

鞍馬寺にさるひきりん
天の東南の殿とてて
田れ右府殿れを備へけはに
ゆつ天とててて日とあやう
書敷と車中に入らてて
たよりとて偶たげの多る
もほのいへとたふひと書中
事たりとててて年長か

がくしー まこと 博識之感
たさひ位のがく 宮とともめう
これと見ゆ天の具 衆あり今
左衛門此系 伯母は長し 方前降
とまごが 此のりこらひら

子守

あな 大報恩寺 秋如堂
の方丈と 寺のなか
そ坊のり 察わらひ 一徳也
乃も 教徳 幼か 此時 寺法と
あびた たり ありと ありと
陶器 景幹 縁 既より ともと
特代 題 お遠 せり

八角堂

子守 居れ ありして 八角堂は 太
子 守り 修造 したる 末代 太子
の 御 意 輪 観 音 并 漢
土 佛 工 の 造 る 法 花 と 太

子守作の像あり

金閣

大小のあり 蘇花 花
退隠乃地とあり なる 寺は 三
此閣あり ありと 法水院と 是寺中
多 釈迦 左右に 観勢の 二重 薩
あり 西のり あり 善相 園原の 後
并 三 庫 苑 院 なる 義の 像 あり 才
二重と 漸 高 旧と あり あり あり
観音 并 三 日 天王 此 像 あり あり 三
之と 宛 竟 傾 あり 傾 あり あり 三
あり 西の 板 一 敷 あり あり あり あり
凡 閣 の 内 あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり

銀閣

東山 浄土 寺 村 の 内 善 願 寺
あり あり あり あり あり あり あり
地 是 依 行 寺 あり あり あり あり あり

がた

西面新築あり此方丈あり
細川勝元之寺院ありけ

谷堂

おこし新撰け此方丈あり
家藏寺ハ松ノ尾山ノ南ニ
あり中ノ寺ありて

延福上人の開基元天名宗下
して世より谷の寺とせり
上人ハ俗稱ハ幡太郎義家乃
嫡男義家親の嫡孫ナリ今寺
絶へたるハ山田村豪族の墓ニ

峯堂

まゝもハ下山田村あり
或ハ法花山と云補世

よま峯此堂をあり元弘三ノ
少極の忠死を此堂に奉り
特ける此堂を子ハハ兵中ノ
めり焼くハ正親善ハのこま
より蓮宗の傳也

奇附

大徳寺

此寺は宗持にあり
中世と云門あり

又連宗持宗長白河公朝より
て資料ありと云と建宗ハ南
と云もハありカチ利休也
後々白河と施門より南と造
り此寺の像ハ慶長よりハ南
上に此寺を居る言と云飛
りあり利休と云り南と云
此寺の本像と一系宗持と云
と特別何故ハ漢和尙像と
云しハハ飛りて大徳寺と
云り希爾常宗也云

國寺南門

方丈ハ南門ハ此寺
日向寺也此寺建
けはよ世に此寺門と云

同方丈

高寺の後醍醐天皇の

禱祈ありて大行幸時
の崩基より赤松心とて
社園作し海傍一真降の資料
とて白ねはるや作儀入院の持
来松のあり香と焼ね淑心子
を志は下財と捨て方丈と建

安祥寺

吉祥の号一六神の
一院と銘の赤山女意
壇の各ありと又徳之末孫を
云文徳の中従五位下純綱は
興家業山城守治部果田と
中安祥寺より麓入とと

光岩寺

建仁の南ありて
の像ハ佛ニ通志又湛空の作
不始車や町二条の山あり今

本國寺

大光の号一自蓮室三
十の隨一ありて
先相扇習う松葉う各あり
りし之程のは孫日像上人説法
の地をわはるはる寺と徳次
と新ありて開基日下上人身
二世日給と人の赤松ありて
の出はる叔父ありて中世と
五条の南ありて後松葉
強心寺と海傍一今北境代
中ありて強心寺附とと不也
官ありて子ありて方丈ありて
切入り修正の号ありて松葉寺
ハ大和乃國ありて城あり也

金蓮寺

四條北道場を稱す滯

にわかれぬ今よ源後山と号す
淨阿と人の開基なりけ地八具
平親より地毛地ありて今北西脚
乃門より時よりあり 廣多の地
湛子難着る時淨阿行折草
しつて平産あり信や出高と
再興一并三條ゆり持現の社と
由川傳言言日金蓮寺と由隣
し依木乃喫る宅地ありて高
ち小寺附りて今の寺中中分
とありて道與言宅地あり
南禪寺三門 寺概五丈六之
尙寺三門中絶と
特々云々の中移易大坂陳の後
若堂と泉も高尾志がくある
樹松園とありて内宅とありき

南禪寺三門

寺概五丈六之
尙寺三門中絶と

蓮華寺

山門と再真とて虎大坂路は
大切ありおまきりある者我死
をも依りて自他結縁ありて各
位此牌と図の上は金蓮寺と
蓮華寺と 元仁和寺に分院ありて
とありてと荒廢ありての廢寺
中の謀の信人権口長五智れぬ
才木の石條と造立一山上に空
とて新をま言京の淨持大持
那と結と信ありてしと後實見
文十三の葉ありて再真とて俗人
ちのりくとありて寺並五神佛と稱
般舟寺 法入西小泉名小ありて
言京小ありて觀賢の因基
なりとありて廢壞ありて久しと世海
下の高齋端氏某と白那と稱
再真とて堂とて文殊の像と

般舟寺

法入西小泉名小ありて
言京小ありて觀賢の因基

卷四
宇重一法法觀賢乃像と
重行

純像

多摩法皇宸乳

竹田
宇重院

八條女院宸乳

日寺

美福門院宸乳

日寺

白河法皇宸乳

長講堂

花園法皇宸乳

妙等
出風院

後光嚴院像

泉涌寺
西光院

後白河院像

日院

宗徳天皇宸乳

東山
真性院

行水尾院宸乳

般若三昧院
林五

は佛殿乳五八妙法院乳九悲院
親王乃清筆下りて替ハ信
の帝制表清宸乳
後白河法皇像
法負寺

深實乳公像

西八条
遍照心院

豊后木乃吉像

橋本東
浄徳寺

御堂関白道像

京右
誠心院

大内相軍像

山科竹鼻村
西之堂

鎌田信忠公像

大徳寺
摠見院

日 信忠公像

日寺

細川頼之像

長谷川
延光寺

細川勝元像

龍安寺

源三位教改像

平等院

康苑院道長像

康苑寺

行基菩薩像

寶積寺

慈惠大師像

日寺

弘法大師像

日寺

佛光國師像

真如寺

佛玉圓師像

日寺

多相宗師像

日寺

觀賢上人像

般若寺

寬朝上人像

小菴寺

廣賢師心像
上人の真言廣弘法大師の廟祖小
言にして遍照寺の廟基なり

醍醐寺

佛眼明妃金像

三鈷寺

西山三鈷寺に在りての明妃なりし
女也一とて花嚴宗の明妃なりし
之は像は當寺の中興性徳
持てありきたりなり

所首合體像

法皇寺

は寺性灵集一ののり示れ公訓
寺に弘法大師一旦は下りて
まじり八幡の神現ありしにの
像と作る首の八幡入の神像也
像以下大師の神像ありしに
まじりて作りたるなりと合得法
物とこれ首合體像と云ふ

摩利支天像

禪居房

は像を何回かおわすまらるゝの泥
相寺の像ありて世人のつらむなり
人九像 草津出雲庵

は像の後朝長に歌刻せり
系原に居人寺宅は不人死せし趣
車伴像 本郷市川村 海生寺

くもる伴入深山和尚と号せり
七百の年の事と云りぬ依久七
百歳と云

傳教大師像 比叡山
慈覚大師像 同所

聖寶陀心像 上渡 准泥堂
空室上人像 深草 真宗院

立著尼像 上人の浄土まろくま流の用証あり
真如寺

修心遍照像 花の 光孝寺
源母上人像 小塩山 光孝寺

延嗣上人像 花尾下山 社殿あり
上人の松尾の南院殿に於て開基
として天名宗がむ世にまの
堂と云はけ寺也上人俗種八公人
太常よりこの嫡男にけりこのも
うらわれ嫡孫なり今もこのゆり

小野管王像 花山 隆光寺

外敷若士像 花水寺 田村堂

車伴像 田村將軍延徳終焉所なる像堂に
内あり

多宝菩薩像 西三堂 松平院

宗仙寺 立寄高倉

村井春長軒

永正寺

木下二位法下之屋像

高基寺

堀監物直矩像

日寺

板倉恒重之像

福正院

梅田三好白虎像

日寺

車御の院の侍女持子納之の巻

目録員業の衣冠像

法惠寺

山家

河内院

東宮会金山西下

栗田北よりあり

火葬の場かわり山南

地院のふりて東照と勤

秋葬此興流しと華場と

総頂のころと又流る今

里村の東南舊の法白と

河内院がありは不い

あふの連部志とく位

又ふりてありはと

松内内村平此

四十八軒と建

佛と院ありは

堂ありて日蓮

一とありて科

去門とありて

の諸堂と焼

まのこしと

の草堂ありあり

小庵家

傳と東山信田の
南ありありあり

伊予はもと行かざるか伊予の
名ハ兼谷は伊予の
とつて一説は
小庵家ハ清水山ありあり
牛尾山ありあり

如意嶽

東山の絶頂とせよ
とせよ

一甲の道ありありとせよ
按ニ聖護院同の二井ありあり
乃号ありあり
の在の方ありあり
観音ハ今ニ井寺中微ありあり
椿家 女意ハ今ニ南ありあり
古ハ国成との淨益信

横谷嶽

一有惟高嶽とせよ
とせよ
とせよ
とせよ
とせよ
とせよ

光の峯

東後吉山の東東嶺あり
山中北南ありあり
條道家公は下ありあり
門堂とせよとせよ
仁の兵火ニ堂ありあり
とせよ
常天庵の周ありあり

窺仙嶽

穴居ニ室ありあり
の由ありあり
とせよ

まろの類不云流一乃ひぐり
惠比須山 下栗田神明の社を
下へ傳へ傳教大師刻

石の惠比須は木像は山の上
ありと今うまを絶てその像
まろの院あり

有王山 山峰井が里の東に
ありお侍の後賢後

都は重なるまはそとの者ありと
山下は宅地乃ありりり
後賢の平一まろ

光の山 井おの里東南あり
の神の社ありあり

義の中 高倉宮の仁親
流し南都におりひまろ
光の山を居の下にて流し
ありとて薨トたまふも居
今現ありあり

の山 宇治市宮山の上
聖護院門に一代一及

大孝ニ入る人時系と出る人
け不云むりとも月おり
依一たまふ也

麻背山 恭仁の帰つづみの山
け山は樹叢より其基削

敷のまはせありちるも
泉川の赤まあり
本は丸泉川の赤

馬作山 山の上におり
八幡山の南の方伏

美濃山 の赤まあり
鳥羽院の赤まあり
一那とてかまへはる
帝特々感ありあり
と号せ則け五とる

と云ふ一夫一人也

双曼山

日向お湯川の東にあり
本三位経徳公の御代に

大納言佐の局より重なり御代に
おしよ下りて双曼と云ふ

白川山

白川村東に山ありて
川をさす内流す

いふ一夫一人たり白川の流す
是のふくまきかきかき内流す
情延山より名あり勝軍あり又一
多かりと云ふ山と云ふあり青柳
の流すと云ふ山は東南と云ふ
越すの道あり山中越すと云ふ
るると云ふ山の地の中は白く
世にさる白川をさる

石山

洛東聖天谷川の東にあり
嶽乃西より神木あり

はれし毎人の九月十日は
使はれりし中常盤に神馬あり
御下位勢より名あり山麓の
中納言勸法乃より名あり山麓の

中山

吉田と云ふ谷合の中間に
はれし外基がらん

めむり入葬場あり凡そ京原其
味は場ハ本最勝川系中山の
部中延命寺あり中山の
不かり延命寺あり一寺部野
よりあり絶てり清水よりあり
ア中より細道今延命寺の
出子と号しは下中山の葬場
と云ふ吉田社に臭氣と云ふ
谷山に東の葬場あり

花頂山

栗田山に西にあり
まほ花畑燻の地あり
毎の公方家系にあり

知山

智恩院山の南よりお
軍塚は山よりありと

音羽山

清水山よりあり瀑泉は山
中よりわき凡洛かきぬ

鉄と稱する山三木ありての
法あり音羽牛乳尾の音羽白川
より羽これなり

船長山

子中北東山より西の麓
より火葬場あり

大原山

北北八休の山より凡山
下より八郷あり東は方井

出る寺上り元流勝林寺本道より
西乃方井村草生を寂せん院
より生村あり

内山

西は金剛院の中より
後醍醐天皇御禱の野あり

下より船長山より從五位の下より
づけあり五人五位あり

砥取山

音羽山の北よりあり

三ツ石

音羽の山より三ツ石あり
部より南北山よりあり又牧

岩は八人又熱産あり高雁梅
鬼の湯は山よりあり

橋石山

東は音羽山よりあり山腹より
三方橋ありありありあり

社は山よりあり法は大原人あり
梅あり之梅は正月五日社あり
一のかり三石檀とあり始法あり
の山よりありありあり

深茅山

音羽山よりあり日蓮宗
宝塔寺あり音羽あり日蓮

ありありあり南無妙法蓮華經の
石塔は寺よりありありありあり
昭宣公御遺徳よりありの松ありあり
け宝塔寺は地あり今寺ありあり

おのれをいふは道元和尚建立
しるし無量壽のしるしなりは地蔵
迦世永井信法より高政俊乃降
ふあつり一時はうとせり無量
震乃谷ハけ山の東よりわ日蓮宗
此の地は谷より隠居せり

竹葉山

いかりの南よりわ

奥山

友の糸のいかりわわ
後丸を更ハぬるまの郷乃

人なりといはふてあふたのみらふ

いかりの南よりわ

一蘭山

泉川のかきわらわ

小倉山

上野城よりわ二の院は
院三寶院常寂光よりわ

砥取山

野崎のいかりわ

きりね

おのれをいふは道元和尚建立
しるし無量壽のしるしなりは地蔵

いかりの南よりわ

橋石山

東極の南よりわ

社は和よりつては法大上人の
ゆかり念毎の四月五日社

このいかり三の檀とわら始法
のいかりのいかりわ

深茅山

船着の南よりわ日蓮宗
宝塔寺は

あつりよふは南無妙法蓮華經の
石塔は寺よりわ

照宣公御建よりわの松
は宝塔もは地あり今寺ハ絶て

村の名にこの連ゆ遠元和尚建立
と云ふ奥和室のし又いみけ地へ
迎世永井信法より尚政後乃降
つゝあつてつはちさや作無具
震乃谷ハハ山の東よりわり見宗
此詩傳げ谷又隠居せり

竹葉山

いかりの山の南よりわ

奥山

友の友のひかしのわお物
後丸を更ハぬるまの輝乃
人かりとけおてあふにのみらふ
こまけつ原のふと跡じくひか
依てけ山と奥山と稱するも

一蘭山

泉川のかこわよりわ

小倉山

上原戦よりわ二寺院性生
院三寶院常寂光よりわ
とびるは山下よりわ

関山

本懐乃里よりわり下懐
乃買けふよりわ

茶味山

茶味山の東よりわり
右へひえふは一層して傳
繼大昨はこれ繼頂上堂と建茶
昨の係と安室よりわ後山へ
寺封内乃よりわ茶味の係を
比叡山は林幕候寺村よりわ二
百の故大徳よりわ濃わ向は係と
後より徳よりわ門共色よりわ
徳和尚は孫法教宗謂る相
院乃内よりわ時大野よりわ下地
の故城は山と来ては信教師より
昨は其係とを後てはふに
と立安室よりわ今現よりわ

鏡山

山神陵山の東よりわは
鏡山 上流の池あり傳云
天智天皇の宸跡と云ふあり

水にて清みなり早慶寺増城
笠置山 東南ありわ瀬川との位
多し一山をて峻峻なり

瓜生山 白川の南浄土寺村の
ありわ瀬川の流るる後

一条院 紅楓とてわびく多し
ケのへ瓜生山とて志加久乃山
然よありひきあふとて

寺瓜生の下にあわこまけり
まじりづき乃りなり

大腹山 鞍馬山のふわり式小大
山とて凡山株の小父悲

鏡の山 高其堂の上にあわり
境るる為潭水とて也溪間も

一溪水とて月一わおるる
あとのむむるる清よも

わりの茶のふも又流り
下流とて汲よしてわり又

寺けふもわりと一洗
門茶をわりの地ありと

入道が悦の建立とて
結けしとてありと

田原山 同道の後
山嶮岨あり

水石山五岳
朝日岳 謙倉山 新岳
多岳 真岳

澗河

彌勒川 東中山土田村の西あり
姑は川をくいに石鉢堂
あわらふははははは中よりふり
ふり後村氏善堂と舟具
石像の地帯と安土と云れ
し時をくわてみろ川と云は水
けをこれ井出わ出

月輪川

月所は勸川の西あり
石れ者傳ふも上月は
輪の相國兼實るふかたは法
とくは法依りかひ黒谷よまふで
きよけは川でくわ河草よりあ
さるふは川よりくわ河草よりあ
月輪川と云はると今法依り人の傳
と云ふるもくわ河草よの志若
くわ河草よの志若

大草川

大草川 是川水東山名を親勝と
おて南極寺塔改標伽院極
院の後を替て東三ふ条川を
川よ入ふわらふと又南極と中
林番と聖院乃るくわ河草と
小名川と云也

美枝川

洛水と名ふ東山名
よわ水と名ふ後

いわゆる徳寺門下と傳はて
院より一條の尻り橋乃下り
かたがたなり

更級川 小川と伝はるる一條通の
西へ流る川をいふと文致
川をいふとゆへとあり

紙屋川 小野社の西より流る
木村の村より南のうへ

吉祥院の東にあり下馬路の西
いわゆる川に入かり小野社
紙村ありいづれ川にそ宿傳
きゆるとあり

宇賀川 妙心寺は川門茶の東あり
いわゆる川にあり下馬路の西
此間なり大車記よりいふと
六本坂にあり川板橋あり
いづれ妙心寺の中智勝院の

竹林あり

津波川 大慈の東よりあり
いづれ川にあり下馬路の西

院ありいづれ川にあり下馬路の西
毎の二月晦日廣澤が川に
川よりありて教と傳はるる

芥川 碓氷川よりあり
と傳はるる川にあり下馬路の西

流るは是なり下馬路と傳はる
のる芥川ありて昭宣と傳はる
橋ありこれにありて 仁明帝
乃河原の此よりいづれ川に
して同名別下あり

有川 下馬路の西よりあり
國府の川にあり

船よりありて流るは是に吉祥院あり

けふよりあり船よりかゝりて人財ふ
古より此の木の葉とゆふもあつた
まては泳ぐをやらせ泳ぐあり泳
るはけふの葉とゆふもあつた

榎川

源平盛衰記よる源軍
宇治より榎川と海にて

本懐よりかゝりて是にゆふもあつた
榎川ハ今立派な村此川は源平
又碓礮山に榎川と榎川ありけ
川もよ深淵天王此二角ありけ
れよ深少川とよ是則榎川
あり同く名別はあつた

放生川

八幡山下にあり毎の宵
十五日放生舎は川は

厚待川

洛外大原の里勝林の
源通と扱て南より

まひる川の水の音はよと
まひる川の水の音はよと
川の川と合て呂計の川と稱せ

相場川

日中よりあり河内位の中
おろし榎婦因ふとあり

後金屋より南都よりわび内京
とよる入付よき瀬川の婦も知
る中細と榎の娘大納言依
原西海よりわび姉太史三
位とひそかに日中より行なふ
はわらへておろし永渡の情
よのべの合を依りてお場川
と名せり

西川

清水は西よりあり西よ
り来る川は俗に西川の川

高野川

水とあり榎の園よりあり
原八束の里と依りて比

敷山ノ麓と云ふ高野村に於て
流るる川と云は川乳の東
の南に於て又其流川と流るる乳
の社と云ふなりて此等の社と云
ふに條川系祇園の社の本
一ありて流るる川乳と云
ふ毎日の五月晦日六月七日
お井此神輿は川乳とも云
とみりて流るる川

小川 此方二股川も終る
百の橋の下より小川
通れる人家の下より一條あり
りて橋入橋をいひて流るる

音新 田と云ふ新田の社の
まことと云ふ泉涌り門本之流る
下は流るる川三股あり
音新の流るる川と云

枕川 此れ西南より流るる
本は川と相合ると云ふ

白川 此れ里よりありて
山泉懸壺のふりて流るる小川
と云ふ可謂ふありて流るる
乳と云ふけりて流るる川

流川 此れ國湖水より出て
勢田に流るる川と云ふ
谷と云ふ川と云ふ川の橋
下ニありて依見え入るる川
水は流るる川と云ふ川
と云ふ川と云ふ川と云ふ川
と云ふ川と云ふ川と云ふ川

七瀬 深き川西南より流るる
川と云ふ川と云ふ川と云ふ川

泉川 山城本町の西よりありて
流るる川と云ふ川と云ふ川

宿軍と以率しあひはあつて
お垣安然とお我ひ生に挑て
すくにおあふ依しふぞ川と云
今あやまりそつづ川と云

金剛 東嶺の門茶鴨水此中
あわ侍会玄天正年中所

ふち馬とさ着あり夜の森乃南
は行若くは是盗人れ前出
してそは後堂又あし氏たあ
まぐれ入令派衣服おと望よ
系師の人畏くそ長本吉
系師れ尹徳意院玄は下
よ令してそ川ふ右馬と搦え
はわよ大かろ令いて三條の橋
乃南して敷きしけりまぐれ
ま雨にあつて一は洪水はあ
てけ雨よあられあるそ不測
なり火を起すやあわらそ

巫測 八洲の里にありはそは
日大御神本現の教を
何と宗とかがそ巫測を
そまろーあし心よそつづ川と云

鞠 八洲よあわ侍会玄海の
お殿十五又又教と
もに八洲とるにあまそ矢流の
たを纏てそ自害とそ人そ胃と
わまじいよ投捨あひしそあつて

観音 空法寺空玄山の東
あわ侍会玄正年中所
音お沢れ下あわ侍会玄海の
えけそにそ本休そそりのあわ
且感教とゆそけ関よ入教者
此像とおひそそそそそ

千鳥園

頃城大井内此中あり
横筆跡又道とくしては志
身と撥しとるがう

三河園

下馬羽合堂の基にあり
土間に八念寺の園基に
して村上天皇此皇子が遷
化此時遺言し三つかいては
水葬とは因南小田所なる今
一殺生といふもささく

霊垂泉

千代野井

此小田蓮宗本降ちあり
地あり千代野谷に
越後守不持のむとありて是
和指流の泉此後兼あり
ありてお家の恵となり一日義徳

の園松忍計の所尾一とくさみ
日長池襟し又ハ徳尾のくめに
新とどわ水と汲我々の芳が
まことうつてくわりたといとぬあり
特に神呪とくくもわしゆりさ
後八月十五夜各よらる水と汲
しにさ桶の底あけ水もた
新わぬ千代野のいんとして大
快せりわ多と泳してとくはく
まのくう桶れ知わけて水た
まのくう桶れ知わけて水た
あまのくう桶れ知わけて水た
禪利志と尾とく号とては後と
杖取神の土堂二階堂とては
外清檀越財施とかりは十板
の本橋より堂と建ち景
せしと号しと尾と尾と尾と
ありとあり今本降ちの地と

かき一の木の末梢乃ゆりて景
をもちよこしははあよふ水也
の井とせよ桶とてあられと梅
の産のわけいと採りてあま
隈北園松見ちにあつし特の本
かや又一統と桶の産乃ぬけし
前借の徹ははしてつよあや
勢よ水と汲のまよわくは後
せし井よりわてあよ汲乃井と
とわあやまわちんか

見井

見井 聖徳太子の山よあわは
云大徳寺徹斎和尙一
且はあよ行居口わあやぬけし地
よ水乃よ事とくしむ或時見
齋を人ろせを現ト又よ水
しり地中よ入行し徹斎と
つものひこもは水の水のあよと
これあまよしじりあわらこま

百智月井

百智月井 後醍醐天皇は水
て清紫がわつとあよよ
そく太子南都よりあよの系よ
しらせたまふは水と汲て湯と
あえたまふよ

山の井

山の井 東山聖徳太子あわはり
の井中勢乃はつと桶と
さしよくはあまあよ
はせ隠主も嘯子けあは行あひ
しう後西山大原中よよ
居とららしあよ

利休井

利休井 中野西万とあま南川
林乃中いありはあま
長秀吉公の沖えあまの湯真
のとき子利休は井水と汲てあま

威遠井 大徳寺の南にありて
よわむ傳へ中を言
宗の傳はよわむ大威遠の傳と
傳へありて井水と傳へあり
ありてありと

式部井 小栗栖中井茶井の
よわむ傳へありて
つとよまぬ水とて観の水
とありてありと

常盤井 大徳寺の南にありて
ひがし田の中にあむ傳
とありてありと

橋次井 西條寺の南にありて
ありてありと

小醒井 西本願寺の南にありて
ありてありと

法印井 大徳寺の南にありて
ありてありと

富井 今出川通にありて
ありてありと

伝はよわむ傳へありて

ある井のこま

松井 四条東にありわんわん
いし一葉人松井三郎

はちやうはち若しはひは水と
て葉金と真外はひらとを

漱玉泉 洛中高井村蓮花寺の
内よりわんわん

徳利は從長今校百部父宗二
が碑石あり宗二ハ孝長秀吉

と名ひ秀次とよはし人ありとを

五井 八幡よりあり

石清水 独流木 岡井
五井 筒井あり

霊池

月見池 竹田わんわんありわんわん
西南西のちは井あり

修去吉ありは神ありといふ
よはひ池水は月と對しあり

手島池 京極西又余の道場合堂
おれ竹林ありあり

長者池 山科の里宮がけ村にあり
又の林の社のありあり

修去のありははちやうはち
ものありはちやうはち

かわはけ人の宅地とありあり
世に長者池とありあり

白鳥池 鴨宮のやんわんわん
修去中おけ地あり

相傳ふありありありあり
は池にありありありあり

と白^く池とてその名^なありけり

弓^{ゆみ}揚^{たか}池 山^{やま}科^か田^たの^の三^{さん}村^{むら}の^の内^{うち}あり

浴^ゆつ^つせ^せみ^み丸^{まる}中^{なか}に^に池^{いけ}あり

無^む池 下^{した}栗^栗田^田池^池と^との^の水^{みづ}あり

義^ぎ経^経牛^{うし}の^の池^{いけ}あり

人^{ひと}敷^敷十^{じゅう}人^{にん}折^{せつ}三^{さん}人^{にん}一^{いつ}太^{たい}刀^{とう}と^とい

名^な池 中^{なか}西^{せい}南^{なん}の^の池^{いけ}あり

は^はら^らの^の池^{いけ}あり

堂^{どう}あり

鏡^{かがみ}池 山^{やま}科^か田^たの^の池^{いけ}あり

の^の池^{いけ}あり

た^たの^の池^{いけ}あり

鏡^{かがみ}池 山^{やま}科^か田^たの^の池^{いけ}あり

天^{てん}智^ち天^{てん}智^ちの^の池^{いけ}あり

池^{いけ}あり

放^{はな}池 西^{せい}山^{さん}勝^{しょう}持^ぢの^の池^{いけ}あり

池^{いけ}あり

重^{おも}池 中^{なか}上^{かみ}の^の池^{いけ}あり

池^{いけ}あり

池^{いけ}あり

手取々の龍と池とてあけ
けりしとせしむるの池と云

靈水

善泉

山科安祥寺に在り
ありけり此泉甚良
雅信正行法師の時あり此水
汲たしむるあり

中書水

嵯峨龜岡山あり
本北中書兼明親王
取けし山と國君ありて水と
ふよみのり繁文と他とあり
は水と視よるり書ありて

梅雨水

大徳寺門前あり
ありての大地に下りて人
此水のり此水と云

舟和尚はけりて中書と云
けりしとせしむるはありて
ぬれは水漲りし出ることあり

弁持水

本山と云ふ寺
のありてはありてあり

乃風水

海山と云ふ
中道風社のありてあり

聖水

清水と云ふ南あり
道にありてありてあり

善氣水

鎌倉と云ふ
浦ありてありてあり

泉

山神神祇神代卷
遷山園を占む此初

アは山より天と雲垂れ
は水いかり炎天あが
りも増城なり

奇石

妙蓮石

建仁寺方丈のうしろ
山のまもりの中い

地と出る石三つありあ
しむる石とておと
ふりも地へ入る石と
尺とて石とてあつた
石樹く妖石とあり

狭盤石

名懸心院の門の内
あつた石

條々として小池

丸生石

右狭盤石のひうりに
ありつた石

以て神社と今此紙園
とて姑息丸生石と
ありつた石とあり
あつた石とあり
あつた石とあり

社神石

同右方丈池水の西
ありつた石

双塚石

名懸心院の西
ありつた石

池の石化して

とすめを後池とすめを本
とすめと二ツ立ててあつしとす
今此双塚石をせりやと

中山石 後の西大沢の山下

修之遍照寺此寺祖寛翁と
人けふしわ也天一たまひの
と修之中山石と号す

義船石 八束の里にあり修之

軍をふもて尾沼の國へ
あふ時けは里とるは石と
らいたなきと今人のおて
ふ字とありけりハ後世ぬ事
の者れおとふかろ

方丈石 日神外山にあり修之

室ありしとあり人合ふはけり

石ありしとわし 草にけり
余ありしとる 乃ありしとる
しとけるよの はるこころ
一むれ中にありし 絶る地

念佛石 本所の乃坂にあり修之

舟ありし念佛と まへへ
あやしけり いまは念佛と号す

車前石 下流のあり修之

の時 修之 人 修之 社 の
して 修之 人 修之
始て 修之 社 の
ア 修之 社 の
は 修之 社 の
一 修之 社 の

河内の車ありとけつ可あり今

赤太赤石 淡路大井川の中へ
せんきり赤水座よ

ひらり乃赤石あり俗に赤太
赤石と云傳ふ赤神のほろ
石なりと村にひてわに石

一雨といのうかあひてある

雷石 稲荷山の三尊の石
懐のいあり傳ふいふ

神傳呪と傳してうづらと
石は縛りてし神傳今も

とありとて或説に淨きまら
なりと古祀に淨きあり

とて神童よ孰花の水と
とらひひし伝ふことさへり

一鬼伝と伝ふことさへり

鏡石 洛山麓の石の石
石は下にあり石は

石は二丈あり高き三丈餘
石はたのりいして磁石の

くまし電石のくましをいよ
りて後石をい俗に云ふの

源のくましは石にりて我
名とてくのへたす

坐禪石 山麓の石の石
わらそのくましをいよ

れ坐禪石なりとて

妙見石 東きく南の石の石
くましをいよ

のくましをいよ
寺の石の石の石

歌付

冠石 洛山麓の石の石
村のくましをいよ

石は下にあり石は

うしろとけりよけりさたまひ
神代交とおろく本うふこそ

夜泊石 やどし
あつ令くくド地多に
あり又いり一麻死松園

あはれへ赤松かすわ放じ
あつ石あわ世一赤松をこそ

名樹

一松松 いちのまつ
徳天曆九年三月廿日
若神祀してえよやを

近の馬場一松一松子午き
とふしと初くく口人のど松

とふしと一松松と号と今
と七松系これ也

一松松 いちのまつ
赤松系は勸堂と吉田
しむらよわわいりよ

子午樹 しごんじゆ
一子午れ橋といふよ
て者ゆれぬの系とくわ一松王

松殿此堂と建立四のいよにい
くわてころく市に訪まり堂

の跡ハ今絶てき

又老松 またらう
大徳ちれ方天本南には
又株のき松現くあり始

杜鵑松 とくせん
四又木の道場金世ちの
中松松殿れをいあり

先ひいづらば松を流て枯夫ぬ
毎ひままれまふとめわらうこ

とては松よまわくや初きと
出いゆらうこそいり一松松殿

義教公ままれ末ごにいけ
入りせなまひわらうきこい

たよりいこたりの松松松

西の梅

上野の南に梅の下

傳云西の梅は原志とくけふ
作てとせんよう梅さくわあ
我々の多くと知じては梅は
とこの梅は梅は梅は梅は
は梅の梅は梅は梅は梅は
梅は梅は梅は梅は梅は

雪の梅

大徳寺の梅は

の梅は梅は梅は梅は梅は
しては梅は梅は梅は梅は
つわが梅は梅は梅は梅は
系は梅は梅は梅は梅は梅は
と梅は梅は梅は梅は梅は
かたは梅は梅は梅は梅は

わが梅の女は梅の梅は梅は

人か梅と梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

梅は梅は梅は梅は梅は梅は

茶臼部 真木の上は梅ありは梅
世に夢を宿梅のこゝろにけり

利休松

洛小僧のついでにのち松を
男子の頂上とありけり

利休松のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

利休松のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

兜投松

湯殿大井のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を

兜投松のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

下松

一乗寺村のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を

杉松

火倉山常寂のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を

杉松のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

古溪松

修徳院乃中山のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を

古溪松のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

古橋

河漢橋

上京町のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を

河漢橋のついでにのち松を
しきうの松をとりて久しき松を
体息のついでにのち松を

せいじん下の水の所にありけり時
は橋より戒光寺此法門からと
しれりかつるまきれ層のあ
りて古木のらんらん板より
らんれ縁とまきけりけり
今よりらんらん

百橋

姉取と通す川
未にあり東西に橋
くし西實徳尼院の茶の所
といふ所ありけり
橋のくしとむらじり
郎の人けり
乃編号しとく

水の橋

凡小川南のあり
西よりむらすに南あり
とるす水木はふり

かろはれよりづかに
けりて橋二ツあり
るるりの東西あり
南より水ありの所

月見橋

徳少谷七条の南あり
法興寺あり
あり月老のく
山ありあり
地ありあり
一と一玩あり
二月とあり
ありありありあり

松平橋

堀川通中津川の
大層の里あり

市川の所一河一ありわ四水のたつ定
個を又流強して中流に合
わたりまきまほら大いなる
向なき今定國の三王止は
たつおまきよふと疎くま
かりくまきまらるる橋の
とよよとにぬくくく
くくく大長くくく感し
くくくくくくくくくく
川く橋のくくく

庚橋

城川通又水にわわい
ゆきくくくくくくくく
妖怪の淵とゆわわはひ
の式神と使念くくくく
神とくくくくくくくく
くくくの下に式神とくく
ゆきくくくくくくくく

船がとゆわわのゆわわ
くくくくくくくくくく
あくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
神くくくくくくくく
くくくくくくくく

鳥橋

中津村の西小くく紙を
川一越大小山村ゆわわ

金橋

後乃南橋本北南あり
もくくくくくくくく
は橋ありくくくくく
あてあまきくくく
くくくくくくくく
のきりくくくくく
くくくくくくくく

